



関宮学園

学校だより8号
R 6. 6. 19

校訓「敬・愛・信」

トライやる・ウィークを行いました

今年度も多くの事業所の皆さんにお世話になり、3日(月)から7日(金)まで5日間の活動を終えることができました。8年生はいきいきと活動していました。人から頼りにされている、事業所(人や社会)の役に立っているという感覚がそうさせたのでしょうか。



話はそれますが、関宮こども園との連絡会の中で、1年生は学級の仕事が好きで、進んでやろうとしているという話になりました。1年生も人(先生)のために役に立ちたいという気持ちが強いのでしょうか。人の役に立ちたい、あるいは役立っていると思うことは、自分も他人も幸せになります。中学生は、学校や家庭、地域などの組織を構成する貴重な一員です。トライやる・ウィークは終わりましたが、学校では引き続き自己有用感を感じられる場面の設定に努めていきたいと思います。

今回、事業所で指導ボランティアとしてお世話になった方の中には、自身が関宮中学校の生徒としてトライやる・ウィークを経験した方もいらっしゃいました。その方の経験談を聞きながら、「恩送り」の話を思い出しました。「恩送り」とは、受けた恩をその人に返すのではなく、別の誰かに送ることです。8年生は、今回指導していただいた方に直接恩返しはできないかもしれませんが、もし、将来、トライやる・ウィークを受け入れることになったら、自分がしてもらったことを関宮学園の後輩にもしてほしいと思います。

わくわくオーケストラ教室に行ってきました

7年生が4日(火)に2つの施設を訪問しました。午前中は、兵庫県立人と自然の博物館を見学しました。

午後からは、兵庫県立芸術文化センターで行われた教室に参加し、名曲の演奏や楽器紹介などのプログラムを楽しみました。演奏に加え、施設の豪華さに感激していた様子です。今回の教室をきっかけに、音楽に興味をもった子どもたちもいるでしょう。YB ファブをはじめ市内ホールでは、音楽イベントが企画されていますので、参加してはいかがでしょうか。



自然学校を行いました

5年生が5月27日(月)から31日(金)までの4泊5日、あけのべ自然学校、円山川公苑、竹野スノーケルセンターなどを会場に活動を行いました。今年度も高柳、八鹿、伊佐、宿南小学校との連合での実施ですので、他校の児童と新たな人間関係を構築しなければいけません。単学級の本校の児童には得難い経験になったことでしょう。初日の夜はキャンプファイヤーでした。火には不思議な力があります。徐々に日が暮れていく中、全員で火を囲むと、仲間とのコミュニケーションが生まれ、子どもたちの仲間意識が高まっていくように感じました。

以前、都市部の学校の自然学校に関わったことがあります。都市部の子どもたちが歓声を上げるのは、満天の星空、鹿など野生の動物との遭遇(季節によっては蛍)です。市内の子どもたちは、普段から自然いっぱいの恵まれた環境で生活していますので、都市部の子どもたちほどは感激しないかもしれませんが、自然を感じる感性や、自然を守ろうとする気持ちは研ぎ澄ましてほしいものです。

飛行機遠足に行ってきました

4年生が7日(金)に但馬空港から飛行機を利用し大阪に向かいました。子どもたちは、上空から見る地上の景色に興味津々でした。「高層ビルが多い。家が多い。」との感想が多い中、ある児童が「野球のグラウンドが多い。」とつぶやきました。よく見てみるとたしかに多いです。気づきは人それぞれです。子どもたちの観察力に驚かされました。



国立民族学博物館では、世界の人々の生活や文化に触れることができ、NIFRELでは、魚類等の生き物の様子について学習することができました。いずれも子どもたちの興味や関心は高く、今後の社会科や理科の学習にも生きることでしょう。私事ですが、小学生のとき、遠足で民族学博物館に行き、凧揚げで魚をとる映像を見た記憶があります。その体験もきっかけの一つとなり、地理に興味をもつようになりました。子どもたちには、さまざまな体験を重ねる中で、自分の好きなものに出会ってほしいと願っています。

帰りのモノレールの車内で、ある児童と地元の方との会話がはずんでいました。自分たちが養父市から来たこと、NIFRELを見学したことなどをきちんと伝えていて感心しました。地元の方からの「養父市と言えば但馬牛?」との問いかけに、「はい。それ以外にも八鹿豚や大根もあります。」と答えていました。自分のまちを語れるのは素敵なことです。そのような児童を見て、誇らしい気持ちになりました。

